

# 研究所だより

編集・発行

千葉県長生地方教育研究所

茂原市東郷2300-1

TEL 0475(24)9721・FAX 0475(23)4820

H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>メール [kenkyujo@beach.ocn.ne.jp](mailto:kenkyujo@beach.ocn.ne.jp)

## 「オリンピック・パラリンピックを活用した教育」の推進に向けて

千葉県教育庁企画管理部教育政策課 主査 進藤 周介

### 1 はじめに

日頃、先生方におかれましては、「オリンピック・パラリンピックを活用した教育（以下、オリパラ教育）」に取り組んでいただき感謝申し上げます。

いよいよ、来夏に東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

県内では、東京都に次ぐ競技種目が幕張メッセ及び、一宮町釣ヶ崎海岸を会場としてオリンピック4競技（フェンシング・サーフィン・テコンドー・レスリング）・パラリンピック4競技（ゴールボール・シッティングバレーボール・パラテコンドー・車いすフェンシング）が開催されます。

過去を少し紹介させていただきますと、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した、平成25年9月には、千葉県内での競技開催は予定されていませんでした。

私が、県総合企画部政策企画課に在籍し、東京オリンピック・パラリンピックに関する業務に携わっていた平成27年4月は、千葉県の「東京オリンピック・パラリンピック競技大会」を活用する方策としては、「各国選手団の事前キャンプ誘致」や、「魅力ある観光地づくりとおもてなし力の向上」に注力していました。

このような中、平成27年6月にオリンピック3競技が、11月にパラリンピック4競技が幕張メッセを会場として開催されることが決定し、翌年12月、一宮町釣ヶ崎海岸がサーフィン競技会場に決定しました。

### 2 県教育委員会の取組

県教育委員会（以下、県教委）では、東京オリンピック・パラリンピックの開催は、次代を担う子どもたちに夢や希望を与え、未来に向けた人づくりに資する千載一遇の教育機会ととらえ、平成29年4月「千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針」を策定し、「おもてなし」、「心のバリアフリー」、「スポーツ」、「グローバル」の4つのプロジェクトに整理して取り組んでいます。

この中で、子どもたちに国際感覚やスポーツの楽しさ、ボランティア精神、障害者への理解等を身につけさせ、大会後も「無形のレガシー」として引き継いでいけるように、目指す児童・生徒の姿や具体的な取組等をまとめています。

キーワードとなっている「無形のレガシー」は、子どもたちが身につけた「思いやり」や「公正公平の心」等と、学校で取り組んだオリパラ教育の「授業」や「行事」などが、大会後も引き継がれていくことを目指しています。

県教委では、先行的にオリンピック・パラリンピック教育の実践を行う「推進校」を指定し、取組方針のプロジェクトから2つ以上を実践するようお願いしています。

平成29年度は、競技開催地やその周辺市町村、キャンプ予定地の市町村を中心とし、市町村教育委員会との調整の結果、計30校を選び、スタートしました。

平成30年度からは、競技開催地、キャンプ予定地、ホストタウンまたはそれらの周辺地域の学校から、地域の実情等に応じた特色ある学習活動や行事を発展させるとともに、地域人材の活用など、効果的な実践が期待される学校計65校を指定し、今年度は、特にグローバルプロジェクトを必須としてオリパラ教育に取り組んでいただいています。

推進校での実施結果については、毎年度末に報告会を開催するとともに、成果をもとに「オリンピック・パラリンピック教育に関する指導資料」を作成し、県内全ての学校に配付しています。

今年度は、推進校だけでなく、県内全ての公立学校が、オリパラ教育に取り組めるよう、夏にパラリンピック教材「I'm POSSIBLE」の教員対象研修会を開催しました。児童・生徒が主体的にオリパラ教育に取り組めるよう、10、11月を「オリンピック・パラリンピックを活用した教育推進月間」に設定するとともに、キャッチフレーズやイラスト募集するなど、集中的に取り組んでいただきました。

### 3 まとめ ～これから目指すこと～

県教委が目指すオリパラ教育は、来年開催の「東京オリンピック・パラリンピック」で終了ではなく、「無形のレガシー」を大会後に引き継ぐことだと考えます。

パラリンピック教材「I'm POSSIBLE」教員研修会講師のマセソン美季さんは、「パラリンピックには社会を変える力がある。パラリンピック教育を通して、インクルーシブな考え方という種をまくことで、今の子どもたちが大人になったときに、社会が変わるのではないか。」と話していました。先生方が日常接している児童・生徒の皆さんが、社会を変える力になるのです。

来年度、「学校連携観戦チケット」を活用して、オリパラ教育の集大成として、子どもたちに大会会場で競技を観戦させる計画を検討している学校もあると思います。

また、先生方の中には、パラリンピック教材「I'm POSSIBLE」の教員研修会に参加し、マセソン美季さんからの熱いメッセージを受けとめ、教材を活用した教育実践を行い、子どもたちと一緒に共生社会の実現に向けて授業を展開している先生方もいると思います。

「オリンピック・パラリンピックを活用した教育」は、全教員が学校全体で楽しく取り組むことが大切だと考えます。児童・生徒が学校の教育活動の中で「オリンピック・パラリンピック」に触れる機会を数多く提供いただくとともに、「オリンピック・パラリンピックを活用した教育」を多くの先生方が実践していただければ幸いです。



## 「一松小のオリ・パラ教育」

### 長生村立一松小学校

開幕まであと200日余りと近付き、カウントダウンも始まった2020東京オリンピック・パラリンピック大会。本校では、平成29年度に指定を受けて以来3年間、オリパラ教育推進校として取り組んできました。これまでの実践と今後の取り組み予定を紹介します。

#### ○平成29年度

##### 【車いすバスケットボール】

シドニーパラリンピック日本代表の根木慎二氏を招いて、車いすバスケットボールの特別授業を行いました。当日は、「障害とは何か」についての講演を聞き、その後、「車いすバスケットボール大会」を児童が体験しました。車いすを操作しながらバスケットボールを行う難しさを身をもって体験し、パラアスリートのすごさに驚いていました。

#### ○平成30年度

##### 【おもてなしCHIBAプロジェクト】

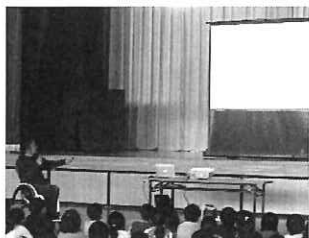
栽培委員会が中心となって沿道から見える花壇にヒマワリの種をまいて育てました。また、冬季には、5色のパンジーを5輪状に植えたり、学校名「ヒ・ト・ツ・マ・ツ」をパンジーの寄せ植えで表したりして、来校する方を気持ちよく迎えられるように、花壇を整えました。

##### 【スポーツ義足体験授業】5・6年児童を対象

2016年ジャパンパラ大会400mで日本新記録、2017年世界陸上400mリレーで銅メダルを獲得したパラ陸上選手の池田樹生氏を迎え、「夢をもち、障害と向き合いながらこれまでどのように努力してきたか、パラスポーツはどのようなものなのか」という内容の講演をしていただきました。その後、参加児童全員が義足体験を行いました。児童は慣れない義足を装着して歩行することで、障害者の困難さやたくましさについて理解を深めました。

##### 【車いす特別授業】全校児童を対象

日本パラ陸上競技連盟副理事長、花岡信和氏を迎え、「パラトーク」という演題で講演していただきました。その講演の中で、花岡氏自身の障害の原因となる受傷から、パラリンピックに挑んだ経緯、さらに自己肯定や障害者のもつ多様性などについてわかりやすく話していただきました。特に、障害者に対して何でも支援をすればよいのではなく、その障害者が望んでいることは何かを確かめてから手を差し伸べることが大切だという話は、相手を尊重する気持ちをもつことにもつながる貴重な話でした。また、車いす体験では、車いすの扱い方を教わったり、競技の雰囲気を感じられるように、指導を受けながら車いすを動かしたりすることができ、パラアスリートのすごさを体感すること



ができました。

#### ○令和元年度

##### 【サーフィン大会見学】6年児童対象

一宮町の釣ヶ崎海岸で行われた国内のサーフィン大会を見学に行き、国内有力選手と交流したり、競技について説明を受けたりしました。サーフィンを体験したことのある児童も数名いましたが、初めて見る児童も多く、地元開催の競技に対する興味関心を高めることができました。

##### 【中国の小学生との交流会】全校児童対象

中国江蘇省(南京市)の第一小学校の5・6年生33名が来校し、全校児童との歌や学校紹介などの交流をした後、5年生と昔遊び、6年生とスポーツチャンバラをしました。最後に、全校児童と、ランチルームで給食を一緒に食べました。子どもたちは、事前に相手の文化を学び、相手の気持ちを考えておもてなしをしようと一生懸命に取り組みました。中国の学校の先生からの感謝の言葉に、達成感と来年オリンピック・パラリンピック開催時のおもてなしへの意欲を高めました。



##### 【シッティングバレー教室】5年児童対象

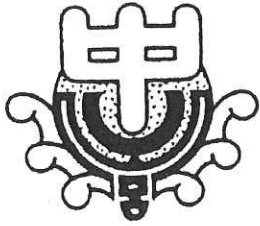
来年度、本校は、シッティングバレーの観戦を希望しています。それに向け、5年生のネット型のボール運動の発展としてシッティングバレーを取り入れて行います。県のトップアスリート等活用事業を通してシッティングバレーのパラアスリートを招き、講演と実技指導をしていただく予定です。そのほか、「あすチャレ!ジュニアアカデミー」では、4~6年生の児童を対象にパラアスリートから共生社会の基本的な考え方を学ぶ予定です。

オリパラ教育の推進校として、いろいろな学びの機会を得ることができました。そのどれもが、驚きと発見、感動にあふれ、子どもたちに夢をもつこととあきらめないことの大切さを教えてくれました。特にパラアスリートとの学習は、障害を受け入れ、工夫し、生き生きと挑戦し続ける姿に、多くの子どもたちが尊敬の念を抱いていました。



今回のオリパラ教育が、東京2020までの一過性のムーブメントではなく、終わった後も残るレガシーとなるようにしなければ意味がありません。そのために、教育課程に位置付けられないが、低予算でできる障害者理解の体験活動はないかなど来年以降につながる方策を検討中です。多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる共生社会の実現を目指します。

(文責 和田 晶子)



## 「夢の実現に向けて」

～オリンピック・パラリンピック教育の  
理念を基にした実践を通して～

### 一宮町立一宮中学校

#### 1 はじめに

本校は、「夢の実現に向けて、知・徳・体をバランスよく育むための教育活動の工夫～オリンピック・パラリンピック教育の理念を基にした実践を通して～」を研究主題とし、日々の教育活動を行っている。東京オリンピック2020サーフィン競技開催地ホストタウンとなることから、平成29年度からオリンピック・パラリンピックに関する教育を進めてきた。世界中の選手たちの夢の集大成とも言える東京オリンピックを迎えるにあたり、生徒に10年後、20年後に生きる力として、輝く知性と豊かな心、そして健やかな体をバランスよく育ませることを目標としている。ここでは、主に「オリパラ教育」についての実践を紹介したい。

#### 2 研究目標

千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針より

##### (1) おもてなしプロジェクト

ボランティアに積極的に参加する意欲をもち、温かいおもてなしができる生徒の育成。

##### (2) 心のバリアフリープロジェクト

共生社会の形成者にふさわしい、障害のある人や高齢者等を含めた他者を理解する生徒の育成。

##### (3) スポーツプロジェクト

生涯を通じてスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合う生徒の育成。

##### (4) グローバルプロジェクト

自国の歴史、伝統文化について理解を深め、他国の歴史や文化、言語について学び、世界を舞台に活躍する生徒の育成。

#### 3 研究実践

##### (1) おもてなしプロジェクト

###### ① English Day

A L T や町の外国人職員が全校生徒を対象とした実践的な英会話教室を実施した。「サーフィン観戦に来た外国人への対応」などの場面を想定し、A L T たちが脚本を作成した。また、朝の会から帰りの会まで、教員・生徒もなるべく英語を使って活動した。



###### ②各ボランティア活動への参加

夏休み中に行われた町主催のビーチクリーンには、多くの生徒が参加し、清掃活動に精を出した。「九十九里トライアスロン2019」や「長生特別支援学校文化祭」などにもボランティアとして参加した。このような行事だけでなく、台風の被害を受けた神社の復旧作業を行うなど、地域の清掃活動にも参加している。

###### ③横断幕・のぼりの作成

生徒からデザインを公募し、横断幕やのぼりの作成に取り組んだ。特に横断幕は、サーフィンを全面に出したデザインとなっている。

##### (2) 心のバリアフリープロジェクト

###### ①車いすテニス体験教室

2017年車いすテニスシングルスアジアチャンピオンの鈴木康平選手、山口憲一郎コーチを招き、体験教室を実施した。ソフトテニス部員が実際に車いすの操作から指導していただき、障害者も健常者と一緒にプレーできる競技であるという認識ができ、より身近な感覚をもつことができた。

###### ②隻腕投手による講演会

「夢をあきらめない」をテーマに、生まれつき右手に障害を持った元高校球児、現中学校教員による講演会を実施した。これまでの人生で学んだこと、感じたことを等身大の言葉で話していただくことで、生徒たちは自分のコンプレックスとも向き合うことができた。

##### (3) スポーツプロジェクト

###### ①フラッグツアー参加

東京2020大会の参画や応援を促すためのフラッグツアーに参加し、ラグビー元日本代表選手大畑大介氏を招き、ラグビーの指導を受けた。オリンピック開催地としての自覚をもつことができた。

###### ②サーフィン講演会

本校卒業生の大原洋人選手、大海英一日本サーフィン連盟千葉東支部長を招き、サーフィン講演会を実施した。卒業生が世界を目指し努力している姿に多くの生徒が感銘を受けた。

##### (4) グローバルプロジェクト

###### ①国際交流(中国)

中国からの修学旅行生を受け入れ、一宮町の紹介をしたり、一緒に大縄に取り組みだりした。言葉は通じなくとも、身振り手振りで会話を楽しみ、おもてなしの心を学んだ。

###### ②一宮町クリーンシーズ

東京農工大学の高田教授を招き、マイクロプラスチック問題についての講演会を実施した。マイクロプラスチックは深刻な海洋汚染を引き起こしていることを学んだ。夏休みには生徒による研究チームを発足し、実験を行った。今後生徒集会で発表する予定である。



#### 4 おわりに

オリンピック競技開催地となったことで、たくさんの人々と関わり、「オリパラ教育」を進めることができた。オリンピックが来るまでの一過性のものとなることがないよう、これからも生徒たちの「夢の実現」に向けて、学校全体で取り組んでいきたい。

(文責 目羅 夏希)



## 「温かいおもてなしの心の育成」 ～オリンピック・パラリンピックを活用した教育をとおして～ 山武市立松尾小学校

### 1 はじめに

本校は、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」として、平成29年度から千葉県教育委員会より2年間の「オリンピック・パラリンピック教育推進校」の指定を受けた。オリンピック・パラリンピック教育は、①オリンピック・パラリンピックを題材にして、スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上、②障害者を含めた多くの国民の、幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的な参画の定着・拡大、③児童生徒をはじめとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成の推進を図るものとして位置づけられている。オリンピック・パラリンピック教育推進校としての本校の実践を紹介する。

### 2 ねらい

ボランティア精神や温かいおもてなしの心を育てるとともに、障害者や高齢者への理解を深める。

### 3 実践内容

#### (1) おもてなしプロジェクト

##### ①花いっぱい運動

校内で、各学年が季節に応じて草花を育てたり、花壇に花を植えたりした。プランターを使って育てた花を学校周辺の公共施設や店舗に配った。校外学習でお世話になっている店舗も多く、大変喜んでいただいた。

##### ②あいさつ運動

生活委員会を中心に、校内及び学校周辺で、朝や下校時のあいさつ運動を行った。自分から進んで元気の良い挨拶ができる児童が増えた。

##### ③マスコットキャラクターの活用

児童からデザインを募集して松尾小学校のオリ・パラ教育マスコットキャラクターを決定した。そのマスコットキャラクター「やまももちゃん」を校内の様々な教育活動に活用した。花を植えたプランターやあいさつ運動の際に身につけたピブスにキャラクターをプリントしたり、読書

活動で目標冊数を達成した児童に「やまももちゃんシール」としてあげたりした。自分たちで考えたキャラクターを使うことで、主体的な活動への意欲を高めることができた。

#### (2) 心のバリアフリープロジェクト

##### ①福祉体験学習

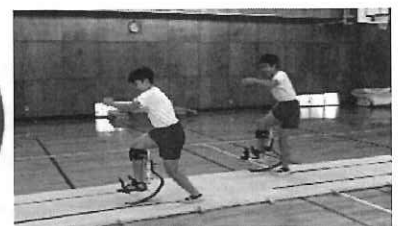
障害者や高齢者への理解を深めるため、社会福祉協議会の方々に御協力いただき、総合的な学習の時間に福祉体験学習を行った。視覚や聴覚に障害のある方を講師に招いて、話を聞いたり、点字や手話を教えてもらったりした。また車椅子体験や高齢者疑似体験も行った。

##### ②ポッチャ体験

特別支援学校の「オリパラ推進隊」と交流しポッチャ体験を行った。ポッチャについて、競技の歴史やルールを教わるとともに、実技を通して詳しく知ることができた。

##### ③スポーツ義足体験

リオオリンピック銅メダリストをゲストに招き、高学年の児童全員がスポーツ義足の体験をすることができた。義足の種類や使い分けについての話も聞いた。義足を使っている選手の生の声を聞くことで、障害についての理解を深めることができた。



### 4 おわりに

日常の学習活動の中に、オリンピック・パラリンピックについて考える活動を加えたことで、児童一人一人がよりスポーツに関心を持ったり、障害者や高齢者への理解を深めたりすることができた。これからの、主体的なスポーツへの取組とともに、多様な国や地域の文化を理解し、他者への共感と思いやりの心をもつ児童を育成していきたいと思う。

(文責 中村 幸子)



## 「地域のよさを生かしたオリ・パラ教育の取組」

### いすみ市立太東小学校

#### 1 はじめに

本校は、「郷土を愛し、かしこく、やさしく、たくましく生きる児童の育成」を学校教育目標とし、各学年において、学校と地域とのつながりを大切にしたい教育活動を行っています。2017年より、「オリンピック・パラリンピック教育推進校」に指定され地域の特色を生かした活動に取り組んでいます。

#### 2 目標 (ねらい)

- ・地域の特色を生かしたオリンピック・パラリンピック種目の体験を通して、スポーツの楽しさや感動を分かち合う気持ちを育てる。
- ・東京2020大会マスコットと身近なものをテーマにして、ポスターに表現することにより、オリンピック・パラリンピックに興味をもち、さらに大会に関わっていかうとする意識を高める。

#### 3 実践報告

##### 【6年生サーフィン体験】

本校の6年生が、9月19日(木)に2020年東京オリンピック・パラリンピックのサーフィン会場に隣接する太東海岸でサーフィン体験を行いました。これは、いすみ市サーフィン業組合、ライフセーバーチーム「Jプロ」、いすみ市体育協会サーフィン部の協力を得て実現したものです。ウエットスーツに着替えた6年生は、インストラクターから砂浜でアドバイスを聞いた後、5グループに分かれて入水し、1名ずつ交代しながら、サーフボード上で腹ばいになって漕ぐ姿勢(パドリング)からライディングに挑戦しました。

インストラクターの方々が、安全に配慮しながら丁寧に指導にあたってくださったおかげで、児童は、初挑戦にも関わらず徐々にライディングを成功させることができました。



今年度は、ほどよい風と波に恵まれ、児童は、夏の日差しが残る9月の海岸で、波に浮く感覚や滑走する爽快感を味わいながら歓声をあげていました。体験後、多くの児童から、「初めてのサーフィンで緊張したけれど、立てた時は気持ちよかった」「楽しかったので、またやってみたい」という声が聞かれ、地域の海岸でサーフィンの魅力を全身で味わうことができたすばらしい体験となりました。さらに、サーフィンを体験した後に海岸清掃を行い、地元の海をきれいに維持することの大切さを考えることができました。



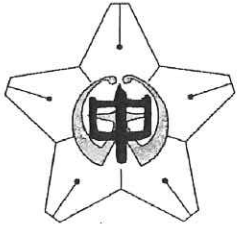
##### 【オリンピック・パラリンピックポスターの作成】

「東京2020大会マスコットと〇〇」のテーマのもと、児童は自由な発想でポスターを描いていました。マスコットの背景には、身近にある太東崎灯台や太東海岸を選んでいる児童が多く見られました。中には、サーフィン体験を生かして描く児童も見られ、オリ・パラ教育を柱とした、継続的な活動につなげることができました。どの児童もアイデアを駆使し、思い思いの作品を仕上げました。児童からは「マスコットとふるさとの風景を合わせることで、オリンピックやパラリンピックが身近に感じられた。」という声が聞かれました。描いた絵は保護者にも公開することで、より一層の東京オリンピック・パラリンピックへの意識が高まったと考えます。

#### 4 最後に

オリ・パラ教育を活用することで、地域の関係団体から賛同・協力を得ることができ、海を舞台にした体験活動を展開することができました。また、地域の特色を生かした活動を行ったことで、ふるさとのよさを改めて認識することができました。これからも、地域に根ざした教育活動を展開していきたいと考えています。

(文責 宮原和歌子)



## 共生社会を目指して、他者を理解しようとする気持ちを育成するために～「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を通して～ いすみ市立大原中学校

### 1 はじめに

本校は、平成29年度・30年度と「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」に参画している。オリンピックによる授業(オリンピック教室)や車椅子バスケットの体験、いすみおもてなしプロジェクト等の活動を保健体育科・総合的な学習の時間等で展開することで、ボランティア精神の涵養や障害への理解を深め、共生社会の形成を目指す気持ちを育成し、本校の学校教育目標である、「確かな学力を身に付け心豊かにたくましく未来を切り拓く生徒の育成」

- ・夢や目標の実現に向けて努力する生徒
- ・自ら学び、思考し、表現できる生徒
- ・思いやりのある、心豊かな生徒
- ・心身ともに健康で、活力のある生徒
- ・郷土を愛し、地域社会に貢献する生徒

の具現化を目指している。

### 2 活動の目標 (ねらい)

- ①生涯を通じてスポーツに親しみスポーツの楽しさや感動を分かち合う気持ちを持たせるとともに、ボランティア精神、温かいおもてなしの気持ちを育成する。
- ②パラリンピックや障害者への理解を深めるとともに、共生社会の形成を目指して他者を理解しようとする気持ちを育成する。

### 3 具体的な取組

#### (1) あすチャレスクール

この事業は、生徒がパラアスリートと接することやパラスポーツを体験することを通じ、障害についての学習及び気付きの機会を提供するものである。講師は、パラリンピック4大会連続車椅子バスケットボール日本代表の神保康弘先生であり、内容は①車椅子バスケットボールについての説明とデモンストラーション、②車椅子バスケットボールの体験、③講話をしていただいた。

パラスポーツに関する知識のほとんどない生徒にとって、パラスポーツの難しさを体験することで、障害者に対する意識の転換を図ることができた。また講師の先生が、障害を抱えてからの自身の体験や夢について生徒に語ってくれたことで、共生社会実現に向けた「心のバリアフリー」について、真剣に考える場となり内容の濃い学習となった。



#### (2) JOCオリンピック教室

この事業は、JOC主催でありオリンピックが教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して、「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝え、

この価値を多くの人々が共有し、日常生活にも生かすことのできることを学習するものである。2日間開催され、2名のオリンピック(1日ごと)が担当した。

対象生徒は、2学年全員(4学級)であり、各学級2時間(運動、座学)展開で行った。1限目は運動の時間であり、オリンピックに関する専門的技術指導ではなく、太縄跳びやゲームなど誰にも親しめる運動が実施された。2限目は座学であり、「オリンピックの価値」を生徒自身に自分ごととして考えさせる内容であった。講師が実際にオリンピックに出場しているため、生徒の反応もよく、説得力のある内容となった。

#### (3) いすみ健康マラソンボランティア

本事業は、本市出身のスポーツジャーナリスト増田明美さんが大きく関わっている。増田さんの知名度もあり全国的に評判の高い大会であり、本年11回目の開催となる。本校は第1回大会から参加しており、今回は昨年に引き続きボランティアとしても18名の生徒が参加し、主に約2500名の競技参加者の受付・手荷物預かりボランティア活動に協力した。初めて参加した生徒は、始めは表情が硬かったが、次第に笑顔で対応する姿が多くみられた。昨年も参加した生徒もあり、参加者投稿ページには中学生の「おもてなし」の様子や感謝の言葉が投稿されていた。ボランティア参加生徒の満足度は高く、スポーツボランティアの体験を通して、スポーツを「支える」活動の大切さへの理解を深めるよい機会となった。

#### (4) いすみおもてなしプロジェクト

1年生の総合的な学習の時間の中で、いすみ市の魅力を調査・発信する活動を行った。いすみ市より講師を招き、景観学習という形でいすみの産業や自然・文化を広く学び、自らのテーマを持って学習に取り組んだ。生徒が自らテーマを決めて地域の自然や文化を調査し、より深く理解するだけでなく、本市を訪れる人の立場となって本市の魅力を発信する。本市へ来訪する人々への「おもてなし」の心を育成することを目的として活動した。

#### (5) いすみ鉄道駅清掃

いすみ鉄道存続プロジェクトの一環で、近くの無人駅の草取りと清掃のボランティアを、生徒会総務が中心となり毎年実施している。駅の環境美化を通して地元へ関心が高まるとともに、「おもてなし」の心の育成につながった。

### 4 終わりに

オリンピック・パラリンピックの精神に触れることは、他者との相互理解を深め、人権意識の高揚や共生社会の形成者としての資質を養うことには大変有効であると考えます。今後も学校教育目標達成のため、生徒一人一人に指導していく必要があり、継続して行う予定である。今後は、これまで行ってきた活動について、更に明確な学習目標を設定し、関係機関と連携しながら計画的に取り組んでいきたいと考える。

(文責 横山 賢治)

## 長期研修生の活動



＜社会科＞  
茂原市立五郷小学校  
村上 健輔 教諭

社会的事象を多面的・多角的に捉える力を育てる社会科学習の在り方  
～地域素材「天然ガス」の教材開発を通して～

第4学年『住みよいくらしをつくる』において、長生・茂原地域特有の素材である「天然ガス」の教材開発を行った。天然ガスの採掘・供給の方法や開発の歴史、副産物であるヨウ素などの様々な面やそれに携わる人々の工夫や努力に触れることで、物事を多面的・多角的な視点で捉える力の育成を目指し検証授業を行った。

### 多面的・多角的に捉えるとは

多面的→一つの事象のもつ様々な側面。  
多角的→その事象に関わる様々な立場からの視点。  
捉える→学習事項同士のつながりを示すこと。  
学習事項と自分とのつながりを意味付けすること。

### 本単元における多面的・多角的な視点

【多面的】  
歴史 自然 産業・工業 安全 安定供給 環境

【多角的】  
生産者 消費者 自家利用者 自分  
他地域とのつながり 海外とのつながり

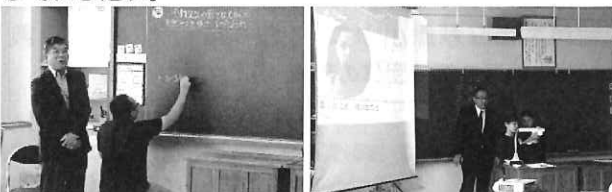
### 授業の概要

|    |                                                                                 |
|----|---------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | ・天然ガスとヨウ素の概要をつかむ。<br>・ガスについてのイメージマップを作る<br>・どうすればもっと天然ガスを知ってもらえるか話し合い、学習問題を立てる。 |
| 2  | ・ガスの産出から供給までの流れをつかむ。                                                            |
| 3  | ・ヨウ素の生産方法や用途などについて知る。                                                           |
| 4  | ・自家利用しているゲストティーチャーの話聞き、利点と問題点を考える。                                              |
| 5  | ・天然ガスの開発に関わった千葉天夢について知る。<br>・茂原の工業発展と天然ガスの関係について考える。                            |
| 6  | ・ゲストティーチャー（ガス会社）の話から、安全や今後の開発について考える。                                           |
| 7  |                                                                                 |
| 8  | ・これからの茂原市や天然ガス産業について、PRIになるようにパンフレットにまとめる。                                      |
| 9  |                                                                                 |
| 10 | ・発表会をひらき、それぞれのテーマについてシェアする。<br>・天然ガスが貴重な資源であると同時に、茂原長生地域が誇れる資源であることを理解する。       |

### 今後の方向性

イメージマップや毎時間記入した振り返りカードをもとに、多面的・多角的に捉える力の変容を見取っていききたい。

また、授業において使用した資料や映像・動画、ゲストティーチャーの話などをまとめ、副読本の別冊を作成することで、長生・茂原地域の児童並びに教職員に還元していきたい。



＜音楽科＞  
白子町立南白亀小学校  
志田 輝美 教諭

ふるさとのよさを感じながら郷土の音楽と主体的に関わる児童の育成を目指した指導の在り方  
～郷土の芸能を総合的にとらえた教材開発を通して～

郷土の音楽の指導において、ふるさとの文化や音楽についてのよさを感じながら、児童が主体的に郷土の音楽と関わることができるよう、以下の3つの視点をもとに検証授業を行った。

### 視点1 郷土の音楽を社会的・文化的な文脈でとらえた学習過程の構成

総合的な学習の時間、特別な教科道徳の時間と音楽科の学習を関連させ、教科横断的な視点をもった学習過程を構成し、授業を行った。また、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、獅子舞の鑑賞、楽器の演奏体験を行ったり、伝統を継承していくうえでの思いをうかがったりした。児童は、地域の伝統芸能について「もっと多くの人に獅子舞を見てもらい、知ってもらいたい。これからも受け継がれてきたものを大切に守っていきたい。」という思いをもって、その後の学習に取り組むことができた。郷土の芸能について多面的・多角的に学んだことを生かし、郷土の音楽に愛着をもって関わろうとする児童の姿につなげることができた。

### 視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善への手立て

児童が課題意識と見通しをもって学習に取り組むことができるよう、ねらいの明確な提示、具体的な学習内容の設定等を意識した授業を行った。また、音楽を可視化する工夫として、口唱歌をもとにした記譜をとりあげた。それにより、つくった音楽を視覚的にとらえやすくなり、児童の意欲的な活動につなげることができた。

### 視点3 鑑賞と音楽づくりを関連させた指導

獅子舞やお囃子の音楽的な特徴や面白さなど、児童の鑑賞からの気づきを生かし、音楽づくりの活動へと展開させた。「オリジナルの獅子舞をつくろう」というめあてのもと、グループごとにリズム伴奏づくりや旋律づくりに取り組み、それぞれに思いや意図をもった個性豊かな獅子舞を発表することができた。



## 長期研修生の活動



＜道徳科＞  
茂原市立東郷小学校  
佐藤 範子 教諭

高学年における「相互理解、寛容」の心を育てる道徳教育プログラム  
～あなたとわたし「ちがうけど同じ」をみつけよう～

### I 研究主題について

グローバル化や変化の激しい現代社会の中で、様々な文化や価値観をもつ人々と対話・協働していくために、また、学校生活の中で、児童がいじめを生まない雰囲気や環境を醸成するために「相互理解、寛容」の心の育成が求められている。

その要請に応じ、複数の内容項目や対象者、様々な体験的な活動や行事等を取り入れた道徳教育プログラムを構成・実践する。それによって、相互理解の必要性に気づき、相手の立場に立ち、謙虚な心もちながら、よりよい判断、行動のできる児童の育成を目指し、本主題を設定した。

### II 研究目標

「相互理解、寛容」の心を育てるための、効果的な道徳教育プログラムを開発、実践することで、その効果を明らかにする。

### III 授業の概要（第5学年）

#### ①内容項目「個性の伸長」

自分自身のよさや成長を感じると共に、他の人と自分の共通点や相違点に気付いたり、再確認したりした。  
～あなたとわたし「ちがうけど同じ」をみつけよう～という共通テーマを設定した。

#### ②内容項目「国際理解、国際親善」

学活で外国と日本の文化を学び、共通点や相点がある事を知った。道徳で「外国の人と関わる時には、お互いに理解しようという気持ちが大切」という思いを深めた。

#### ③内容項目「公正・公平」

特別支援学校の児童との「居住地校交流」を視野に入れ、活動を進めた。学活で特別支援学校の存在や学校生活の様子等について知り、道徳で「障害がある方との『公平』とは」について考えた。多くの児童にとって、初めて考える視点であったが、今後生きる学びとなった。相手の障害や思いを理解することの必要性にも気付いた。交流会に向けて、どのような活動を一緒に行いたい自分たちで考え、当日は共に楽しんだ。

#### ④内容項目「親切、思いやり」

学活で高齢者体験を行い、高齢者についての理解を深めた。道徳で「本当の親切」とはどのようなものか、考えたり判断したりした。

#### ⑤内容項目「友情、信頼」

友情を育むためには、相手を思う気持ちや信じる気持ちが大切であることを再確認し、友達を大切にしようとする思いを高めた。

#### ⑥プログラムの振り返り

テーマをもとに、今までの学びについて振り返り、誰とでも理解し合うことや尊重し合うことが大切であるという思いを強くした。



＜特別支援教育（発達障害）＞  
茂原市立西小学校  
鈴木 あやか 教諭

適切な行動を増やし、問題行動を減少させる支援について  
～ABC分析の考え方を取り入れた、個に応じた支援の検討と実践～

発達障害等、特別な支援を必要とする児童に対して、できないことに目を向けるのではなく、行動やその背景を分析して、児童の気持ちに寄り添いながら、「できる」を増やすことで問題行動の減少につなげる支援について研究を行っている。

この研究では、問題となる行動を理解するためにABC分析を取り入れる。ABC分析は応用行動分析で用いられる機能的アセスメントである。一人一人の問題とされる行動に焦点を当て、その行動が起こる先行刺激(Antecedent)、行動(Behavior)、後続刺激(Consequent)の三段階に分けて考えることで、なぜそのような行動が起こっているのかを分析する。この結果から問題行動の要因を把握し、その背景や原因への理解が進むことで、適切な行動を増やすためのより具体的な支援が可能になる。

そこで、ABC分析を用いた支援についての理解を促進し、児童の適切な行動を増やすための支援の手立てとなるリーフレットを作成する。それを基に、分析シートを用いたより効果的な行動等の分析、そこから考えられる支援について実践・検証した。

その結果、適切な行動の分析、支援の検討・支援が有効に働き、児童の問題となる行動の減少、適切な行動の増加につながった。

## 教育功労表彰

○春の叙勲 瑞宝双光章 古谷 一雄

### ○千葉県教育功労者表彰

#### ＜教育行政の部＞

一宮町教育委員会 委員 中村 敏夫  
白子町教育委員会 委員 大多和直樹

#### ＜学校教育の部 個人の部＞

茂原市立東郷小学校 校長 古山 幹夫  
茂原市立西小学校 校長 狩野 久志  
茂原市立萩原小学校 校長 宮本 昌典

#### ＜学校教育の部 団体の部＞

長生村立長生中学校

掲載順につきましては、表彰式の名簿順とさせていただきます。  
(敬称略)